

事業報告書

平成20年度

(第1期事業年度)

自 平成20年 4月 1日
至 平成21年 3月31日

地方独立行政法人 山形県・酒田市病院機構

I 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構の概要

①設立目的

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構は、地方独立行政法人法に基づき、医療の提供、医療に関する調査及び研究等を行うことにより、庄内地域等の医療政策として求められる高度専門医療を提供し、及び当該地域における医療水準の向上を図り、もって住民の健康の維持及び増進に寄与することを目的とする。

②事業内容

- (1) 医療の提供に関すること。
- (2) 医療に関する調査及び研究に関すること。
- (3) 医療に関する技術者の研修に関すること。
- (4) 医療に関する地域への支援に関すること。
- (5) 災害時における医療救護に関すること。
- (6) 前各号に掲げる業務に附帯する業務に関すること。

③主たる事務所 酒田市あきほ町30番地

④役員

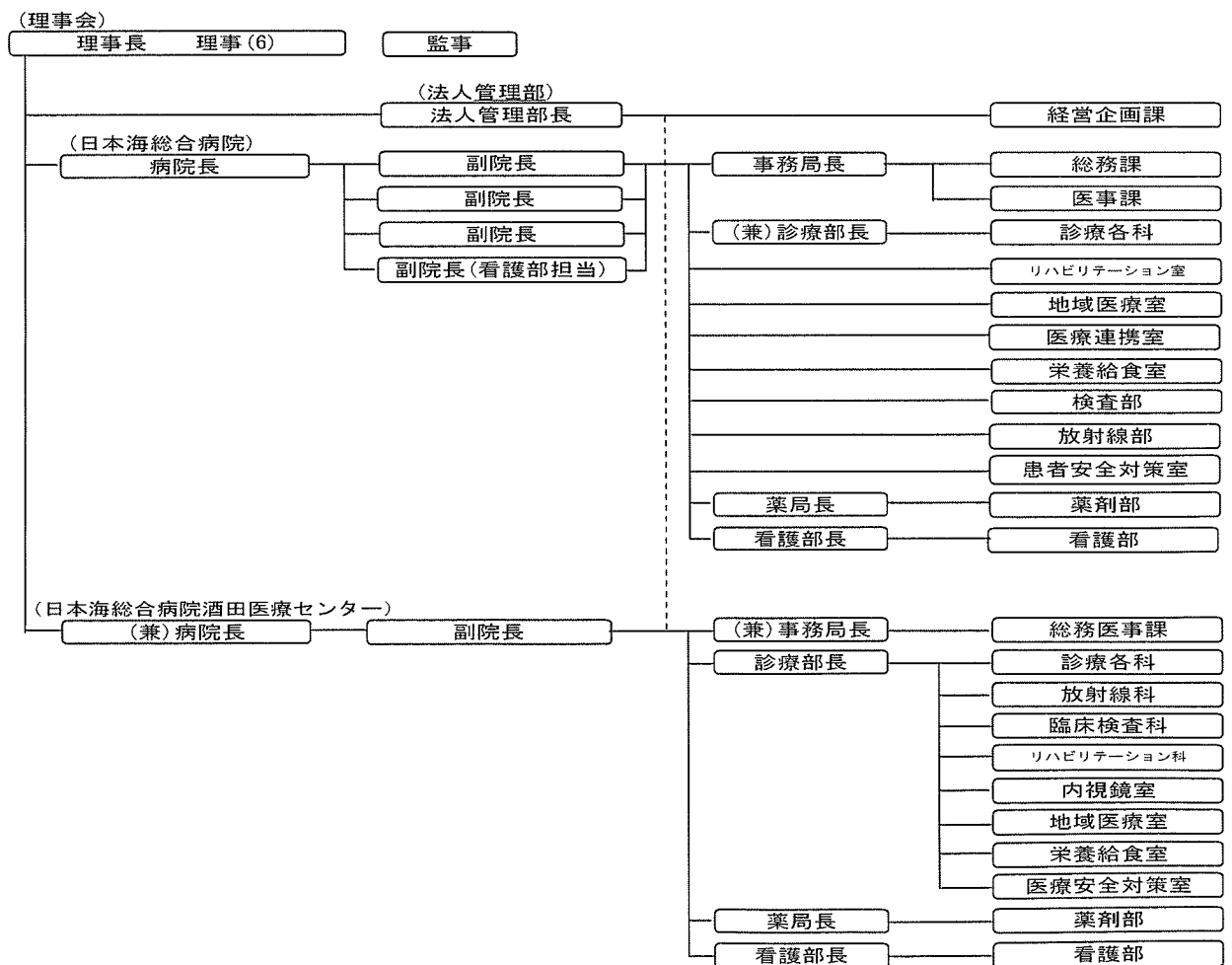
職名	氏名
理事長	栗谷 義樹
理事	豊田 幹夫
理事	田宮 和朗
理事	島貫 隆夫
理事	小熊 正樹
理事	佐藤 三紀

理事	佐藤 護
監事	齋藤 俊勝
監事	加藤 栄

④ 設置、運営する病院

日本海総合病院	酒田市あきほ町30番地
日本海総合病院酒田医療センター	酒田市千石町2丁目3-20

⑤ 組織



⑥ 職員の状況（平成20年10月1日現在）

（単位：人）

病 院 職 種	法人管理部	日本海総合病院			酒田医療センター			計		
	H20	H20	H19	増減	H20	H19	増減	H20	H19	増減
医師・歯科医師		82	72	10	24	38	△ 14	106	110	△ 4
医療技術員		69	70	△ 1	42	47	△ 5	111	117	△ 6
看護職員		410	392	18	166	239	△ 73	576	631	△ 55
事務・技師・技労	7	50	60	△ 10	17	21	△ 4	74	81	△ 7
計	7	611	594	17	249	345	△ 96	867	939	△ 72
法人職員	2	149			228			379		
派遣職員(県)	3	455						458		
派遣職員(市)	2	7			21			30		

⑧ 資本金の状況

3, 790, 624, 663円（平成20年4月1日設立登記時）

○平成20年度の事業概要

1 診療計画及び診療に関する重点事項に関すること。

(1) 診療の基本方針

統合再編の初年度である平成20年度の診療体制は、平成23年度に日本海総合病院の施設整備が完了するまでの間、2病院において急性期医療を分担し、統合の効果を医療機能の向上に反映していくため、下表のとおり2病院の医療機能の集約と再編を行った。

①日本海総合病院

日本海総合病院には、施設整備が完了するまでは外来の診察室や手術室等のスペース等が限られることから、次表の診療科を配置した。また、病床数を528床から525床に変更し、施設整備が完了するまでの期間については人間ドックを酒田医療センターで行うこととした。

6月1日からは、診療科の名称の見直しを行い現行の25科体制に移行した。（※下表の下線の診療科が新たに標榜した診療科）

さらに地域医療室を医療連携室と分離し、地域医療室を増員するとともに訪問看護、退院調整などを推進し、地域の福祉機関・医療機関等との連携を強化している。

日本海総合病院の機能

規 模	525床
診 療 科 (25科)	内科、 <u>循環器内科</u> 、 <u>消化器内科</u> （一部）、 <u>内視鏡内科</u> 、 <u>精神科</u> 、 <u>神経内科</u> 、 <u>小児科</u> 、 <u>外科</u> 、 <u>乳腺外科</u> 、 <u>小児外科</u> 、 <u>整形外科</u> （一部）、 <u>形成外科</u> 、 <u>脳神経外科</u> 、 <u>心臓血管外科</u> 、 <u>呼吸器外科</u> 、 <u>皮膚科</u> 、 <u>泌尿器科</u> 、 <u>産婦人科</u> 、 <u>眼科</u> 、 <u>耳鼻咽喉科</u> 、 <u>リハビリテーション科</u> 、 <u>放射線科</u> 、 <u>歯科口腔外科</u> 、 <u>麻酔科</u> 、 <u>救急科</u>
施 設 基 準	一般病棟
看 護 基 準	7対1
特殊診療機能	ICU（集中治療室）、HCU（準集中治療室） 未熟児室 感染症病床

	放射線治療 外来がん化学療法 セカンドオピニオン外来 緩和ケア 人工透析（急性期） 地域医療室（地域連携・在宅療養支援など）
救急外来機能	消化器科、整形外科、神経科・精神科を除く全般
その他	病院間移動用ワゴン車、院内保育所

②酒田医療センターの体制

日本海総合病院の施設整備が完了するまでの間、酒田医療センターでは、消化器科、整形外科、神経科・精神科を中心とした診療体制をとっている。

また、診療科の再編に併せ、また、患者動向を勘案して病床数を400床から235床とし、165床減少した。

酒田医療センターの機能

規 模	235床
診 療 科 (7科)	内科（一部）、消化器科、整形外科、産婦人科、神経科・精神科、放射線科、麻酔科
施 設 基 準	一般病棟
看 護 基 準	10対1
特殊診療機能	人間ドック 地域医療室（地域連携・在宅療養支援など）
救急外来機能	消化器科、整形外科、産婦人科、神経科・精神科
その他	病院間移動用ワゴン車

(2) 診療に関する重点事項に関すること。

① 診療体制の整備について

a) 救急医療について

○救急搬送件数は下表のとおりであり、2病院による救急医療の円滑な実施をした。

	平成19年度	平成20年度
日本海総合病院	3,519名	3,568名
日本海総合病院酒田医療センター	1,093名	1,021名
合計	4,612名	4,589名

○小児救急外来に対する地元医師会による診療支援の試行的な実施を行っており、20年度は酒田地区医師会小児科医5名の協力を得て救急体制の充実と病院勤務医の過重労働解消につながってきている。

○酒田地区広域行政組合と連携した救急ワークステーションについては、日本海総合病院の増改築にあわせ新棟の中へその整備を行うことに決定した。

b) がん医療

・ 外来がん化学療法の充実

○平成20年度においては外来がん化学療法を延べ1,633名の患者に実施した。

・ 緩和ケア医療の充実

○平成20年度には緩和ケアチームに緩和ケア認定看護師を専従として配置し、毎週1回の緩和ケアチームカンファレンスと病棟回診を定着させ、いつでも相談が受けられるように提供体制を整えた。同年11月からは酒田医療センターでの緩和ケア回診を行っている。平成20年度は日本海総合病院87名、医療センター9名の延べ228名に実施した。また、院内外の緩和ケア医療を充実させるため、平成20年7月から緩和ケア外来を開設した。平成20年度の利用者は延べ72名である。

- ・セカンドオピニオン外来の充実、院内がん登録機能、相談支援体制の充実

○平成20年度のがん相談件数は延べ161件であった。前年度は延べ76件で2.5倍に増加している。

○平成20年度より、がん相談員として緩和認定看護師が配置され支援センターのスタッフ増員に伴い、情報提供や相談の即応体制がとれるようになった。化学療法室の看護師や病院ボランティアから紹介されるなど職員が相談室の存在を周知に努めてきたことなどが増加要因である。

区分	がん相談延べ件数	セカンドオピニオン外来件数	相談員体制	経過
平成19年度	76件	2件 (がん0件)	兼務2名	<ul style="list-style-type: none"> ・がん相談業務手順作成 ・1月センター開設 ・ホームページ開設 ・セカンドオピニオン外来開始 ・広報（新聞、院内広報誌）
平成20年度	161件	5件 (がん3件)	兼務2名（緩和認定看護師1名） ※退院調整スタッフが充実しがん相談の業務割合を増やした	<ul style="list-style-type: none"> ・センター業務基準、手順作成 ・がん情報コーナースマイル開設（図書、パソコン） ・がん小冊子設置 ・がん相談記録シート作成 ・がん相談集計シート作成 ・広報（ラジオ、SPOON など）

c) 糖尿病

- チーム医療による食事療法、運動療法、薬物療法等を組み合わせた教育入院等について99名の集中的治療を行った

d) 在宅医療支援及び療養支援

- 在宅医療支援及び地域の介護機関・福祉機関・医療機関との連携を強化するため日本海総合病院において従来の地域医療室から医療連携室を分離し、地域医療室は5人体制に増員して、訪問看護、退院調整等の推進にあたった。
- 日本海総合病院の地域医療室では、平成20年度では他病院紹介323名、在宅へ234名、老健施設へ80名、特老へ60名、ショートステイ61名、老人ホーム等へ27名、その他35名など合計820名の退院調整を進めており、徐々にその効果が現れてきている。
- 酒田医療センターでは、他病院紹介200名、在宅へ184名、老健施設へ32名、特老へ10名、ショートステイ32名、老人ホームへ28名、その他39名など合計525名の退院調整を進めている。

e) その他

- 複数診療科を受診する患者の利便性を確保するため、2病院間に患者移動用ワゴン車を1日10往復運行している。

②災害時における協力

- 平成20年6月14日に発生した岩手・宮城内陸地震にDMAT（災害派遣災害チーム）の医療スタッフ（7名）を現地に派遣した。（現地本部の指示で活動は行わなかった。）
- 平成20年度は災害発生時に備え、地域の医療機関、自治体等が参加する災害医療訓練に下記のとおり参加した。

日時	内容	参加人員	場所
9月7日	酒田市防災訓練	6名	酒田第六中学校
10月4日	第1回DMAT東北地方研修会	5名	県立中央病院

10月23日	庄内空港消火救難総合訓練	5名	庄内空港
10月31日	東北方面震災対処訓練	5名	仙台空港
2月24日	広域医療搬送実施研修	1名	自衛隊入間基地

③政策医療の実施

- 酒田医療センターにおいて老人性認知症センターを運営し、老人性認知症疾患患者の専門医療相談、鑑別診断等について継続して実施した。平成20年度における新規相談件数は442件、継続相談件数は333件である。

④優れたスタッフの確保と専門性の向上

- 医師の負担の軽減を図るため医師事務補助など医師を支援するため、各病棟などにクラークを24名導入した。
- 日本海総合病院において看護補助者を各病棟に3名ずつ配置し、看護師の本来業務に専念できる体制をとった。
- 業務改善委員会を5月から立ち上げ、スピード感のある改善と専門職種間の連携が深まった。
- WOC（創傷・排泄ケア）認定看護師、緩和ケア認定看護師、集中ケア認定看護師 各1名を養成し、より専門性の高い看護業務の推進を図っている。

- 専門職種である医師、看護師、薬剤師等の技術職について、院内研修等を次のとおり実施し、専門技能の向上を図った。

実施期間	対象者	人数	研修内容
H20年9月	看護師	1	相談支援センター相談員 トレーナー研修
H20年11月	医師、看護師他	200	外部講師を招聘した公開カンファレンス 乳がん講演会「日本のがん対策と乳がん検診及び治療」 東北大学大学院 大内 憲明先生
H21年1月	医師、看護師他	100	外部講師を招聘した研修会 緩和ケア講演会「緩和ケアのエッセンス」 ～症状緩和からスピリチュアルまで～ 聖路加国際病院 林 章敏先生
H21年2月	看護師・放射線技師	74	地域医療機関等の看護師と放射線技師との 合同勉強会 講演①山形大学 野宮 琢磨先生 「放射線治療の基礎知識～生物学から日常診療まで～」 講演②関西労災病院 渡部 昌美先生 「がん放射線療法看護」
H21年3月	医師	33	国が定めた標準プログラムに準拠した緩和ケア研修

⑤地域連携の推進

- 北庄内地域における中核的な急性期病院として、他の医療機関との役割分担と連携を強化した。特に医師会との連携により病状が落ち着いた患者さん等には「かかりつけ医」の連携を強化した。紹介率は以下のとおりである。

	日本海総合病院	酒田医療センター
紹介率	52.5%	46.0%

- 地域医療室では新設地域包括支援センターや地域の介護・福祉機関との連携を強化し、介護・福祉機関への患者情報の積極的な提供や、退院時カンファレンスの取組みの強化等により、医療から介護・福祉へと切れ目のないサービス提供ができるように努めた。

⑥クリティカルパスの活用

- 効果的な医療を提供し、患者負担の軽減にも寄与するため、看護部の看護情報担当部署に臨時職員を配置し、電子カルテをベースとしたクリティカルパスの作成に向けて作業を行っている。

⑦住民の意識の啓発

- 患者、地域住民向けの広報誌「あきほ」を創刊（年間4回発行、平成20年度は2回発行）して、病院機構の様々な情報提供に努めた。
- 病院機構、2病院のホームページを新設して、最新の情報提供を図っている。
- がん診療連携拠点病院ネットワーク事業として次表の講演会等を開催して住民の医療や健康に対する意識の啓発に努めた。

日時等	事業内容	備考
平成20年 11月23日	「あなたは乳がんのことを知っていますか？」～ 検診から早期発見まで～ 東北大学大学院 大内 憲明先生	200名参加
平成21年 1月16日	がんの「いたみ」は怖くない!! 聖路加国際病院 林 章敏 先生	230名参加
平成21年 3月14日	緩和ケア医療およびがん相談に関するリーフレットを作成し、患者やその家族等に配布した。	6,000部作成

- 酒田エフエム放送「ハーバーラジオ」を通じ、病院機構の医師等による医療に係る「総合病院最前線！」の放送を月に2回放送をしている。
- 酒田市広報を通じて、日本海総合病院の増築・改修工事のお知らせ、入院医療費の計算方式の見直しのお知らせ、職員採用試験のお知らせなど情報提供に努めた。

(3) 患者・住民サービスの一層の向上

- 平成20年4月からの統合再編に伴う診療科の移行後の外来、検査、手術、会計等、待ち時間の実態を把握し、次のような改善及び診療時

間の弾力化に取り組んだ。

- ①待ち時間解消のために外来受付時間を午前8時に統一
- ②採血を臨床検査室脇に移動。スピーディーな検診体制をとった。
- ③休日の薬の払い出し窓口を救急外来側に変更した。

- 日本海総合病院において平成20年10月から在宅療養をされている重症心身障がい児（者）が家族の疾病等の理由により介護できない場合に日本海総合病院の空ベッドを利用して一時的に入所サービスの提供を行う重症心身障がい児（者）短期入所事業を実施した。
- 日本海総合病院内に平成21年1月にコーヒーショップがオープンした。引き続き、コンビニエンスストアをオープンさせ、患者のサービスの向上に努めている。

（4）法令等の遵守と情報公開の推進

- ・ インフォームド・コンセントを徹底するほか、カルテ・レセプト等医療情報の情報開示については、山形県情報公開条例及び個人情報保護条例、及び「地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構における診療情報の提供に関する指針」の適用のもとに対応した。

診療情報の提供の件数	平成20年度
日本海総合病院	21件
酒田医療センター	3件

2 施設設備整備

(1) 統合再編に係る施設整備

日本海総合病院の増改築・改修工事については、平成19年度に実施した基本設計に基づき、平成20年度は実施設計、入札、契約を行った。平成21年度当初から着工となる。

建設に当たっては「診療機能及び患者ニーズに対応した施設内容の検討」「将来の医療需要にも対応できる柔軟な施設構成に配慮」「法人の運営により建設費の償還が可能となるよう、建設コストの低減」についても総務省の公立病院改革ガイドラインも考慮に入れ、設計等を行った。

酒田医療センターの改修工事については、平成21年度に改めて病院の医療機能を再検討することとしている。

◆日本海総合病院の施設整備予定内容（平成21年度、22年度）

項 目	内 容
救命救急センター	・ E R（救急治療室）整備
一般病床	・ 120床増設 （うち人間ドック10床）
手術室	・ 5室増設
周産期施設	・ 分娩室、未熟児室等
外来診察室	・ 診察室17室程度増設 ・ 外来がん化学療法室整備
内視鏡検査・内視鏡治療施設	・ 3台増設
放射線室	・ M R I 1台増設 ・ 心臓カテーテル検査装置1台増設
駐車場	・ 増設

◆酒田医療センターの施設整備予定内容（計画）

項 目	内 容
東棟改修	・ 110床程度
エネルギー棟増築	・ 西棟に集約されていた設備を移設

※ 西棟解体は酒田医療センター完成後に実施予定。

<施設整備のスケジュール>

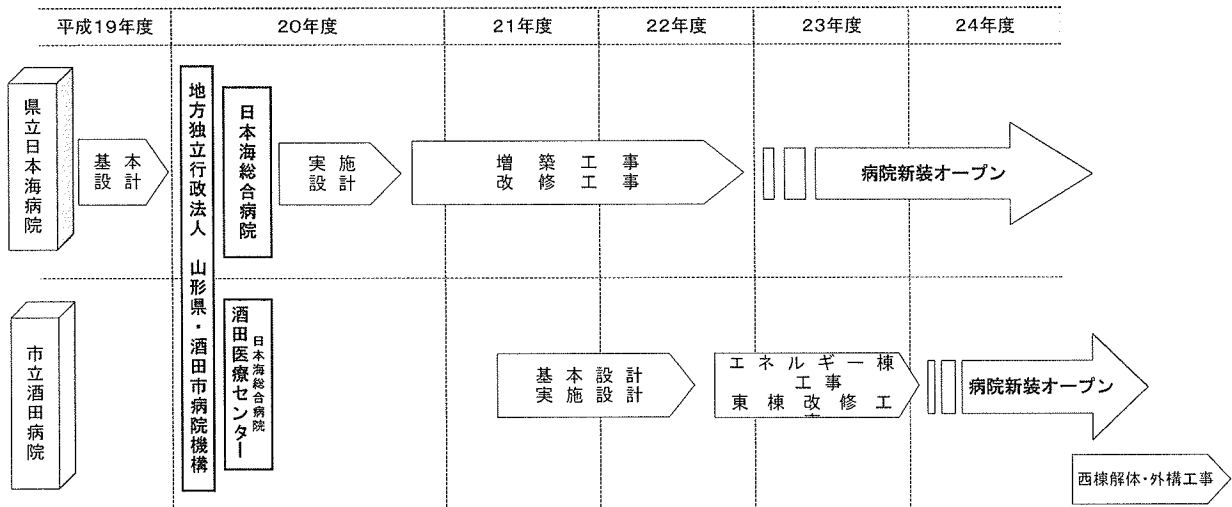
① 日本海総合病院

- ・ 基本設計：平成19年度
- ・ 実施設計：平成20年度
- ・ 工事期間：平成21年度から22年度

② 日本海総合病院酒田医療センター（予定）

- ・ 基本設計・実施設計：平成21年度から平成22年度
- ・ 工事期間：平成22年度から平成23年度

施設整備に関するスケジュール



3 患者動向と収支

平成20年度における患者数と収支については以下のとおりである。

(1) 患者数 (平成20年度)

区 分	日本海総合病院			酒田医療センター			計		
	H19	H20	増減	H19	H20	増減	H19	H20	増減
延入院患者数(人)	161,872	164,679	2,807	97,765	71,992	△ 25,773	259,637	236,671	△ 22,966
実入院患者数(人)	9,334	11,388	2,054	6,250	5,212	△ 1,038	15,584	16,600	1,016
入院/1日(人)	442.3	451.2	8.9	267.1	197.2	△ 69.9	709.4	648.4	△ 61.0
病床利用率(%)	85.4	85.9	0.5	67.6	85.0	17.4	77.7	85.7	8.0
病床回転率(%)	176.3	209.8	33.5	196.8	220.4	23.6	183.7	212.7	29.0
平均在院日数(日)	17.3	14.5	△ 2.8	15.5	13.8	△ 1.7	16.6	14.3	△ 2.3
外来患者数(人)	219,149	221,856	2,707	195,236	112,313	△ 82,923	414,385	334,169	△ 80,216
外来/1日(人)	890.8	913.0	22.2	796.9	462.2	△ 334.7	1,687.7	1,375.2	△ 312.5
病床数	528	525	△ 3	400	235	△ 165	928	760	△ 168

(2) 患者一人当たりの診療単価 (平成20年度)

単位：円

日本海総合病院	H19	H20	増減	酒田医療センター	H19	H20	増減
入院	39,373	44,416	5,043	入院	36,561	38,644	2,083
外来	8,957	10,015	1,058	外来	7,720	8,258	538

(3) 予 算

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差額 (決算－予算)
収 入	17,721	19,579	1,858
営業収益	14,774	14,126	△ 648
医業収益	14,331	13,684	△ 647
運営負担金	443	442	△ 1
営業外収益	1,259	1,241	△ 18
運営費負担金	1,137	1,092	△ 45
その他	122	149	27
資本収入	1,683	4,191	2,508
運営費負担金	1,023	3,609	2,586
補助金	0	9	9
長期借入金	660	573	△ 87
その他	5	21	16

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差額 (決算－予算)
支 出	17,073	19,777	2,704
営業費用	14,056	13,288	△ 768
医業費用	14,011	13,216	△ 795
給与費	7,696	7,357	△ 339
材料費	3,663	3,456	△ 207
経費	2,539	2,342	△ 197
資産減耗費	4	5	1
研究研修費	109	56	△ 53
一般管理費	45	72	27
営業外費用	804	854	50
資本支出	2,190	5,609	3,419
建設改良費	694	609	△ 85
長期借入金返還金	1,496	5,000	3,504
その他の費用	23	26	3

(4) 収支計画

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差額 (決算－予算)
収入の部	16,038	15,452	△ 586
営業収益	14,774	14,193	△ 581
医業収益	14,331	13,671	△ 660
運営費負担金収益	443	442	△ 1
資産見返運営費負担 金戻入	0	80	80
営業外収益	1,259	1,239	△ 20
運営費負担金収益	1,137	1,148	11
その他医業外収益	122	91	△ 31
その他の収入	5	20	15
支出の部	16,061	15,330	△ 731
営業費用	15,237	14,317	△ 920
医業費用	15,192	14,246	△ 946
一般管理費	45	71	26
営業外費用	804	988	184
その他の費用	20	25	5
純 利 益	△ 23	122	145

(5) 資金計画

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差額 (決算－予算)
資金収入	17,721	24,477	6,756
業務活動による収入	16,038	15,407	△ 631
診療業務等による収入	14,331	13,707	△ 624
運営費負担金による収入	1,580	1,590	10
その他の業務活動による収入	127	110	△ 17
投資活動による収入	1,023	1,028	5
運営費負担金による収入	1,023	1,027	4
その他の投資活動による収入	0	1	1
財務活動による収入	660	3,164	2,504
長期借入による収入	660	573	△ 87
補助金による収入	0	9	9
その他財務活動による収入	0	2,582	2,582
前年度からの繰越金	0	4,878	4,878
資金支出	17,073	20,252	3,179
業務活動による支出	14,883	14,354	△ 529
給与費支出	7,696	7,586	△ 110
材料費支出	3,663	3,795	132
その他の業務活動による支出	3,524	2,973	△ 551
投資活動による支出	694	898	204
有形固定資産の取得による支出	694	898	204
財務活動による支出	1,496	5,000	3,504
移行前地方債償還債務の償還による支出	1,496	1,520	24
短期借入金の償還による支出	0	3,480	3,480
翌年度への繰越金	648	4,225	3,577